

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

- 【 な す 】 うどんこ病
- 【 たまねぎ 】 ネギアザミウマ(えそ条斑病)
- 【 ね ぎ 】 べと病
- 【 野菜・花き類 】 アブラムシ類

《5月の予報概要》

水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	発生に注意:ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)				

果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			チャノキイロアザミウマ		
	発生に注意:クワゴマダラヒトリ				
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	発生に注意:クビアカツヤカミキリ				
みかん			ミカンハダニ		
			ミカンハモグリガ		
いちじく	発生に注意:アザミウマ類				

野菜類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
			アザミウマ類		
たまねぎ			べと病		
			ネギアザミウマ(えそ条斑病)		
ねぎ	発生に注意： さび病、べと病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
野菜・花き類			アブラムシ類		

《(参考)5月の気象予報》

気温	低い(10%)	平年並(20%)	高い(70%)
降水量	少ない(30%)	平年並(40%)	多い(30%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(30%)	多い(30%)

(大阪管区气象台4月25日(木)発表「大阪府の季節予報」

<https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area type=offices&area code=270000>)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	[予報の根拠] ・令和5年12月から本年2月の平均気温が高かったため、発生地域では多くの個体が越冬している可能性がある。
		[注意すべき事項] ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 ・用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。 ・田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

B 果樹類

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
灰色かび病	並	[予報の根拠] ・施設栽培での4月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・発病を認めたら、被害花穂・被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

クワゴマダラヒトリ	発生に注意	[予報の根拠] ・施設栽培での4月の巡回調査で、発生が見られた。
		[注意すべき事項] ・成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウ等に産卵する。 ・主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ブドウの新梢や葉を食害する。 ・初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並	[予報の根拠] ・4月の巡回調査では、発生は見られたが平年より少なかった。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要である。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置する等の対策を行う。
シンクイムシ類	並 ～やや多い	[予報の根拠] ・令和5年7月の巡回調査では、発生が平年より多かった。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クピアカツヤカミキリ	発生に注意	[予報の根拠] ・発生地域が年々拡大している。
		[注意すべき事項] ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・成虫が発生する前の5月下旬までに4mm 目合いネットを2重、もしくは0.4mm 目合いネットを1重に樹幹に巻き付け、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め、他の樹への分散を防ぐ。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ミカンハダニ	並	[予報の根拠] ・4月の巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ミカンハモグリガ	並 ～やや多い	[予報の根拠] ・4月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生が多いと、かいよう病を誘発する。

5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	発生に注意	[予報の根拠] ・5月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・主にネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ等がいちじくを加害する。 ・果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。 ・ほ場の周囲を 0.8mm 目合いの赤色ネットで覆う、もしくは乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	並	[予報の根拠] ・施設栽培での4月の巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。
		[注意すべき事項] ・高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(ストロビーフロアブルなど)、SDHI 剤(パレード 20 フロアブルなど)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
灰色かび病	並	[予報の根拠] ・施設栽培での4月の巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。

灰色かび病	並	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。 ・20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(ファンタジスタ顆粒水和剤など)、SDHI 剤(パレード 20 フロアブル、ネクスターフロアブルなど)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並 ～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培での4月下旬の巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・5月の降水量は平年並、日照時間は少ないと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。 ・QoI 剤、SDHI 剤(パレード 20 フロアブル、ネクスターフロアブルなど)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培での4月の巡回調査では、発生はほとんど見られなかった(平年並)。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難なため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培等を行う。

2 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
<u>ネギアザミウマ</u> (<u>えそ条斑病</u>)	並 ～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の巡回調査では、ネギアザミウマの発生は平年並であった。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ネギアザミウマ (えそ条斑病)	並 ～ <u>やや多い</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・えそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。 ・えそ条斑病はねぎ、たまねぎ、にら等のユリ科野菜や、トルコギキョウ、アルストロメリア等の花き類で被害が大きい。
--------------------	--------------------	---

3 ねぎ ※ねぎは令和5年6月より巡回調査を開始したため、平年値および4月の前年値がありません。

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
さび病	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬の巡回調査では、一部ほ場で発生が多かった。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春期と秋期の2回、気温が22℃前後で雨が多い時に発生しやすい。 ・菌は被害植物上で越冬するため、被害葉や残さはほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
<u>べと病</u>	<u>発生に注意</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の巡回調査では被害株率が約1%であったが、複数ほ場での発生が見られた。 ・5月の降水量は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
ネギハモグリバエ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の巡回調査では発生は見られなかった。 ・5月の気温は高い、降水量は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、従来の系統とは食害方法が異なる新系統の発生が確認されている。一葉に複数頭の幼虫が内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害し、葉が白化したようになる。 ・発生を認めたら、系統にかかわらず、「ハモグリバエ類」「ネギハモグリバエ」に適用のある薬剤を散布し、発生初期の防除を徹底する。
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月の巡回調査ではネギアザミウマの被害株率が約 16%であった。 ・5月の気温は高い、降水量は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・えそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。 ・えそ条斑病はねぎ、たまねぎ、にら等のユリ科野菜や、トルコギキョウ、アルストロメリア等の花き類で被害が大きい。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並 ～ <u>やや多い</u>	[予報の根拠] ・4月の巡回調査で発生は見られなかった。 ・4月中旬の黄色水盤調査における発生は平年より多かった。 ・5月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

LINE 始めました！ 週1回程度、病害虫や大阪エコ農産物制度に関する様々な情報をお届けします。

こちらより友達登録：<https://works.do/R/ti/p/byogaichu@bojo>

大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

- ① <https://www.pref.osaka.lg.jp/byogaichu/byogaichu/index.html>
- ② <https://www.jppn.ne.jp/osaka/>

病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当

<https://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>

おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当

<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。